

小学生1・2年生男子 1.5km

返った。限界だと思っただけで、最後まで走り抜けた。意外に

第4位

阿部倫太郎 さん (下北迫)
タイム 0:06:10



より一層深まった親子のキズナ

「入賞してうれしかった。」と話したのは、阿部倫太郎くん。普段は、野球スポーツ少年団でボールを追いかける野球少年だ。スポーツの監督の言葉をきっかけて今レースの参加を決めた。そんな倫太郎くんの姿を見て刺激を受けたのが、父の昌幸さん。第1回の記念大会でもあり、自分の中でチャレンジしたい気持ちが湧きだし、10kmにエントリーを決めた。

スポーツの練習に加え、体を動かして遊ぶことが大好きな倫太郎くん。父とのランニングで本番に備えた結果、見事、第4位入賞となった。

10kmに参加し完走した昌幸さんは、倫太郎くんの走りを見て「必死にがんばった姿をみてうれしかった。これからはいろいろなことを楽しんでチャレンジしてほしい。つらい時も乗り越えて、限界を作らないという子になってほしい。」と話した。

また、自分の完走について「1kmから苦しかったです。子どもが走っている手前、歩くわけにはいきませんでした。沿道の皆さんのがんばれにも勇気づけられました。完走してすごい達成感を味わいました。あきらめないで、最後まで。意外に限界だと思っただけで、最後まで走り抜けた。意外に

一般男子 (39歳以下) 10km

「慣れ親しんだコースでもあったので楽しく走ることができました。寒い中、沿道で応援してくださった町民の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。来年もぜひ参加したいです」と話してくれた。「アウエーだけどホーム」。そんな広野町の温かさを感じ、今日も奥津さんは走り続ける。

第3位

奥津多加志 さん (下北迫)
タイム 0:32:36



「アウエーだけどホーム」

「私にとって広野町はアウエーだけどホーム。広野町じゃなかったら走ってないと思います。」と話したのは一般男子 (39歳以下) 10kmで見事3位入賞を果たした奥津多加志さん。

奥津さんの出身は、神奈川県川崎市。仕事の都合で、単身広野に移り住み、慣れない場所での生活で不安でいっぱい奥津さんを支えてくれたのが、「走る」と「広野町民の温かさ」だったそう。

今回のみかんロードレースについて奥津さんは、「慣れ親しんだコースでもあったので楽しく走ることができました。寒い中、沿道で応援してくださった町民の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。来年もぜひ参加したいです」と話してくれた。「アウエーだけどホーム」。そんな広野町の温かさを感じ、今日も奥津さんは走り続ける。

小学生1・2年生女子 1.5km

未来さんの大きな夢をのせたサッカーボールは、大空高くキックオフされたばかりだ。

第5位

渡辺 未来 さん (折木)
タイム 0:07:04



挑戦は、はじまったばかり

「将来の夢は、JFAアカデミー福島に入ることです。」と胸をはった渡辺未来さん。サッカースポーツ少年団のメンバーとしてサッカーに明け暮れる日々を送る。

今レースに出場を決めたのは、自分の意志から。はじめての挑戦に、総合グラウンドの外周を走ることに取り組んだ。

「1・5kmを走って疲れました。最後は息切れしていました。」とレースを振り返った。父の和則さんは「本人が一生懸命がんばりました。結果にこだわらず、走ってもらいたかった。完走したことがうれしいです。そこに結果がついてきただけのこと。娘には夢があると思う。その夢を大切にもらいたいです。親は子どものサポートです。」と感想を述べた。

未来さんの大きな夢をのせたサッカーボールは、大空高くキックオフされたばかりだ。

一般女子 (40歳以上) 5km

「テレビで80歳代の夫婦が、ランニングする姿を見て、素直にすごいと思いました。夫の病気がわかり、奥さんが夫のために一緒に走ろうと決意した姿に感動して、私も勇気をもらい、ランニングに挑戦してみたいという気持ちになりました」とロードレース参加のきっかけを語った高梨さん。年齢は56歳。5kmを24分47秒で走りぬげた。

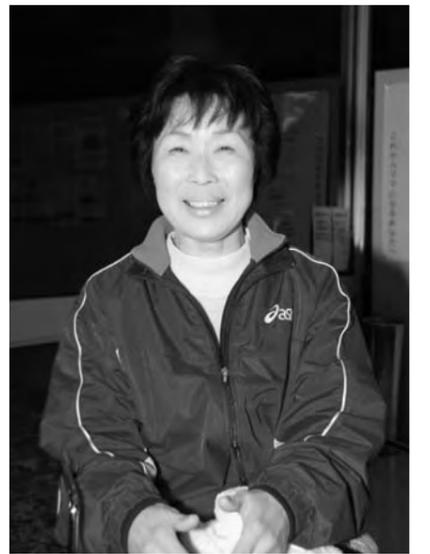
「決して無理はしません。56歳なら56歳なりの走り方があります。また、明日走りたいと思えば続きます。タイムや順位は気にしません。5km、約25分のなかで自分のドラマを作ります。」とレースを振り返った。

今回の大会参加にあたり、練習当初は1kmも走れなかったと言う。年齢に関わらず、あきらめないで目標に向かう姿や、やり遂げることで家族、まわりの人たち、また、自分自身に影響を与えている。

スポーツにかぎらず、「人それぞれ、自分にあつたもので、ドラマを作るんです。その人・年齢にあったもの、皆さん違いますから。」

第4位

高梨 君枝 さん (下北迫)
タイム 0:24:47



年齢なんて関係ない
私にもできる

「テレビで80歳代の夫婦が、ランニングする姿を見て、素直にすごいと思いました。夫の病気がわかり、奥さんが夫のために一緒に走ろうと決意した姿に感動して、私も勇気をもらい、ランニングに挑戦してみたいという気持ちになりました」とロードレース参加のきっかけを語った高梨さん。年齢は56歳。5kmを24分47秒で走りぬげた。

「決して無理はしません。56歳なら56歳なりの走り方があります。また、明日走りたいと思えば続きます。タイムや順位は気にしません。5km、約25分のなかで自分のドラマを作ります。」とレースを振り返った。

今回の大会参加にあたり、練習当初は1kmも走れなかったと言う。年齢に関わらず、あきらめないで目標に向かう姿や、やり遂げることで家族、まわりの人たち、また、自分自身に影響を与えている。

スポーツにかぎらず、「人それぞれ、自分にあつたもので、ドラマを作るんです。その人・年齢にあったもの、皆さん違いますから。」